

令和7年2月28日
農推第1292-11号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次	ページ
特に注意！【たまねぎ:べと病、なす:うどんこ病】	1
果樹【ぶどう、いちじく、もも】	2～3
野菜【たまねぎ、なす、野菜類】	4～5

特に注意！（3月）

たまねぎ:べと病



越年り病株の症状



二次感染株の症状

特徴

- ◆ 育苗時や定植後に、被害残さ等から感染し、越年り病株として1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。越年り病株は、葉色は光沢のない淡黄緑色で、生育も劣る。
- ◆ 好適条件(気温15℃前後で多雨)が揃うと急速にまん延する恐れがあることから、予防散布が重要である。

防除のポイント

- ◆ 越年り病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000等を予防的に散布する。
- ◆ 発生を認めたら発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分するとともに、ベトファイター顆粒水和剤、ホライズンドライブロアブル等を散布する。

※各薬剤に含まれる成分の使用回数の制限に注意する。

なす(施設栽培):うどんこ病



葉表の病斑



葉裏の病斑

特徴

- ◆ チッソ過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にベルコート水和剤、フルピカフロアブル等を予防的に散布し、発生を認めたらパンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

次回の情報は3月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

果樹

ぶどう(加温栽培)

灰色かび病



花がらでの症状

特徴

- ◆ 多湿条件で発生が多くなる。
- ◆ 胞子が雨や風によって飛散し、傷口等から感染する。

防除のポイント

- ◆ 適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆ 第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニールでマルチングをする。
- ◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆ 開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤等を散布する。

ハダニ類



カンザワハダニ

特徴

- ◆ 加温機の近くやダクトの先端部等、高温になりやすいところから発生することが多い。

防除のポイント

- ◆ 発生を確認した場合は、ダニコングフロアブル、ダニトロンフロアブル等を散布する。

クワゴマダラヒトリ



幼虫※

特徴

- ◆ 成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウ等に産卵する。
- ◆ 越冬は、主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆ 生育初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆ 発生を確認した場合は、オリオン水和剤40、フェニックスフロアブル等を散布する。

果樹

いちじく

ハダニ類、カイガラムシ類



カンザワハダニ



フジコナカイガラムシ※

防除のポイント

- ◆ 夏期の被害をおさえるため、被害の多いほ場では3月中旬(発芽前)に石灰硫黄合剤を散布する。

もも

せん孔細菌病



春型枝病斑



葉の病斑

特徴

- ◆ 春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑(スプリングキャンカー)を生じる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 開花期直前にムッシュボルドーDFを散布する。
- ◆ 春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。

野菜

たまねぎ

白色疫病



白色疫病発病株

特徴

- ◆ 2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、予防散布として、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドMZ等を散布する。

ネギアザミウマ(IYSV)



成虫※



えそ条斑病※

特徴

- ◆ 成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる。
- ◆ タマネギえそ条斑病を引き起こすウイルス(IYSV)を媒介する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、グレーシア乳剤(アザミウマ類)、モスピラン顆粒水溶剤(アザミウマ類)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

なす(施設栽培)

灰色かび病



被害果

特徴

- ◆ 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすく、20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期にバルコート水和剤、セイビアーフロアブル20等を、発生を認めたら、ゲッター水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 開花後の花弁を取り除く。
- ◆ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

野菜

なす（施設栽培）

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みにより本ほでの発生が多くなる。
- ◆ ミナミキイロアザミウマによって葉が加害されると、葉脈に沿って不規則な白斑が生じる。また、ミカンキイロアザミウマによっては、葉脈間に白斑が生じる。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

野菜類（施設栽培）

コナジラミ類



タバココナジラミ※



コナジラミ類成虫*

特徴

- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ トマトやミニトマトでは、タバココナジラミの吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬等の被害を引き起こす。トマト黄化葉巻病に感染すると、生育の停止・着果不良を起こす。
- ◆ きゅうりでは、タバココナジラミがキュウリ退緑黄化病を引き起こすCCYV(ウリ類退緑黄化ウイルス)を伝搬する。

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張し、コナジラミ類の侵入を阻止する。
- ◆ 施設周辺及び内部の除草を徹底する。
- ◆ ウイルス病の感染株は、施設外へ持ち出し処分する。
- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ ベストガード水溶剤(なす、トマト、ミニトマト、きゅうりなど)、アグリメック(なす、トマト、きゅうりなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。



トマト黄化葉巻病発症株

＜病害虫防除グループホームページに関するお知らせ＞

これまで本メールサービス等を掲載していた当グループホームページ <https://www.jppn.ne.jp/osaka/> は、令和6年10月末で更新を終了し、以後は以下の新ホームページへ情報を掲載します。旧ページは令和7年3月末にサーバ停止により接続できなくなりますので、ブックマーク等の更新をお願いいたします。

新ホームページ「病害虫防除に関すること」

アドレス：<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>